

## 全国梨選手権受賞報告

荒井 広志

(生物生産工学科1回・平成4年3月卒)



昨年9月、全国梨選手権（日本野菜ソムリエ協会主催）にて、私が出品した荒井果樹園産「彩玉」が銅賞を受賞しました。食味のみを競う全国規模の大会で、熊農卒業生の作った梨が受賞したことを、多くの同窓生の皆様に知っていただきたく、僥倖ながら三農に寄稿させていただきました。

私は熊谷農業高校では植物培養を中心に学び、進学した茨城大学農学部では主に果樹園芸学を学びました。大学卒業後は教員として熊谷農業高校、川越総合高校、羽生ふじ高等学園、騎西特別支援学校にて計二十年ほど勤務しましたが、父が体調を崩した折に果樹園を承継する決断をし、就農しました。現在は荒井果樹園の梨部門の経営をしています。

教員を辞める際、両親には

「せっかく先生になれたのだから辞めない方がいい。」と随分と反対されましたが、沢山の良いお客様に喜んで貰っている梨づくりに魅力を感じ、反対を押し切って就農しました。そのように半ば強引に開始してしまった就農でしたが、家族の理解と支えのおかげで、今まで農業経営を続けること

ができています。ですので、昨年の全国梨選手権の受賞は本当に嬉しかったです。まだまだかもしれないですが、これで少しは家族への恩返しができたように思います。

私の梨栽培は、父より受け継いだ栽培技術（樹形管理、発酵肥料の自家製造など）をベースとしています。清耕法（畑を耕し草を生やさない）から不耕起早生法（耕さず草を活かし天敵を温存する）への転換、化学農薬・化学肥料の削減、樹体内植物ホルモン

の動きを踏まえた剪定・土壌管理法の導入など、少しずつ新たな技術を取り入れていくのには、自分の生理の仕組みを学び、自分の栽培に取り入れていくのは面白いです。農薬や肥料の使用量を減らせるという点では栽培のスマート化・サステ

ナブル化に繋がるはずであり、やりがいを感じています。今後とも熊農OBとしての誇りを持ち、様々な専門家の方々から学んだ内容を自分の果樹園で実践・研究し、品質向上に取り組んでいきたいと思っています。



全国梨選手権受賞報告時の様子  
(令和六年十月九日 埼玉県知事表敬訪問)